

腎・泌尿器疾患

科目責任者 釜井隆男
学年 6 学年

I. 前 文

第6学年の集中講義においては、各教官が翌年の医師国家試験対策を踏まえて、今一度重要事項をまとめる講義を行う。これにより理解が不十分であった部分を補修し、既に習得している事項についても、試験でのミスを防ぐために再確認と地固めを行う。さらに、BSLなどで学んだ知識を実践的に応用できるようにするための講義を行う。

II. 担当教員

教授	釜井隆男	泌尿器科学
教授	安士正裕	泌尿器科学
教授	頼建光	内科学（腎臓・高血圧）
教授	竹田徹朗	埼玉医療センター・腎臓内科
講師	木島敏樹	泌尿器科学
助教	阿部誠	内科学（腎臓・高血圧）

III. 学修の到達目標

すでに履修した系統講義、臨床講義およびローテート臨床実習の内容を踏まえた上で、腎泌尿器領域の実臨床に必要なと考えられる基礎的事項と疾患の症候、診断、治療方法の総括ができるようになる。集中講義では、上記のうち代表的疾患と必須の基礎的事項の総括を行う。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（60分）：第3学年時に学んだ講義を復習し、主要な〇〇疾患、泌尿器疾患の病態生理を理解しておく。
予習用の資料を配信するので、必ず予習すること。講義当日予習資料よりミニテストを行う。

事後学習（60分）：主要な泌尿器疾患の診断に重要な自覚・他覚症状、検査法および検査所見を復習する。腎疾患に関しては、合併症の種類、病因に基づいた種々の薬物治療を記憶する。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他 空欄：該当なし）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	27	月	2	内科的腎・泌尿器科学Ⅰ	内科学（腎臓・高血圧） 頼 建 光	1
2		27	月	3	内科的腎・泌尿器科学Ⅱ	内科学（腎臓・高血圧） 阿 部 誠	1
3		27	月	6	内科的腎・泌尿器科学Ⅲ	埼玉医療センター腎臓内科 竹 田 徹 朗	1
4		28	火	1	外科的腎・泌尿器科学Ⅰ	泌 尿 器 科 学 安 士 正 裕	1
5		28	火	2	外科的腎・泌尿器科学Ⅱ	泌 尿 器 科 学 安 士 正 裕	
6		28	火	3	外科的腎・泌尿器科学Ⅲ	泌 尿 器 科 学 木 島 敏 樹	

六
学
年

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
7	7	28	火	4	外科的腎・泌尿器科学Ⅳ	泌 尿 器 科 学 木 島 敏 樹	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席状況および授業態度などにより総合的に判断する。各担当領域の教員よりの出題による客観的試験を行う。

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（90%）、出席状況および授業態度（10%）

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

- ・医学各論Ⅷ 腎・泌尿器・生殖器疾患
- ・医学総論Ⅵ 症候7 腎・泌尿器・生殖器

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説する。